正誤表

○ 中学校　保健体育　11ページ　〔２〕　問９

（誤）

（１）**知識及び技能**
　球技について、次の事項を身に付けることができるように指導する。



（正）

（１）**知識及び技能**
　球技について，次の事項を身に付けることができるように指導する。

kyosai-guild.jp

正誤表

○ 中学校　保健体育　15ページ　〔３〕　問２

15ページ〔３〕問２の問題を削除します。

マークシートの解答番号 26 について、解答記入欄にマークしないでください。

なお、解答番号 27 ～ 37 について、解答記入欄への記入がずれないように正しくマークしてください。

kyosai-guild.jp

8〔中学校　保健体育〕

受験区分	受験番号	氏　　名

〔注意事項〕

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この試験は、コンピュータを利用して採点するため、解答用紙にていねいに鉛筆で記入してください。

3　解答用紙には解答記入欄以外に次の記入があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

⑴　受験区分・受験番号欄

受験区分・受験番号（数字）を受験票のとおりに記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。

⑵　氏名欄、校種等・教科（科目）欄

氏名・フリガナ及び校種等・教科（科目）を記入してください。なお、校種等・教科（科目）については、受験票のとおりに記入してください。

4　試験時間は 60 分です。

5　解答は、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。例えば、［1］と表示のある解答番号に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号［1］の解答記入欄の(3)にマークしてください。

（例）

解答番号	解答記入欄 1 － 20
［1］	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6　解答用紙の解答記入欄は、全部で、［100］まで記入できるようになっていますが、〔中学校　保健体育〕試験の解答番号は１～ 37 ですので、解答記入欄の［38］～［100］は絶対に記入しないでください。

7　どの問題も、解答番号一つにつき解答記入欄にマークできる答えは必ず一つです。二つ以上の番号にマークしたものは採点されません。

8　解答番号のマークを間違えたときは、消しゴムで完全に消してからマークしてください。

9　計算を要する問題は、問題用紙の余白を利用してください。解答用紙で計算しないでください。

10　問題の内容についての質問はできません。

kyosai-guild.jp

〔1〕「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編（平成29年7月）」に示されている内容について、次の各問いに答えなさい。

問1　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編（平成29年7月）」の中で、保健体育科改訂の趣旨について示されているものの一部である。［1］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［1］。

> (1) 保健体育科改訂の趣旨
> ③　改善の具体的事項
> ～中略～
> 以上の改訂の趣旨に従って，中学校保健体育科では，生涯にわたって運動やスポーツに親しみ，スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し，実践することができるよう，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」（資質・能力の三つの柱）の育成を重視するとともに，［1］における健康・安全についての「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」（資質・能力の三つの柱）の育成を重視して改善を図った。

［1］の語群

①　家庭生活　　②　学校生活　　③　個人生活　　④　社会生活

問2　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編（平成29年7月）」の中で、保健体育科改訂の要点について示されているものの一部である。［2］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［2］。

> (2) 保健体育科改訂の要点
> ～中略～
> ④　生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し，資質・能力の三つの柱ごとの指導内容の一層の［2］を図ること。

［2］の語群

①　体系化　　②　明確化　　③　系統化　　④　重点化

kyosei-guild.jp

問３　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、内容構成の改善について示されているものの一部である。［ 3 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 3 ］。

> **(2) 保健体育科改訂の要点**
>
> **イ　内容構成の改善**
>
> ～中略～
>
> なお，各教科等の内容については，内容のまとまりごとに，生徒が身に付けることが期待される資質・能力の三つの柱に沿って示すこととしているが，特に「学びに向かう力，人間性等」については，目標において全体としてまとめて示し，内容のまとまりごとに指導内容を示さないことを基本としている。しかし，体育分野においては，豊かなスポーツライフを実現することを重視し，従前より「［ 3 ］」を内容として示していることから，内容のまとまりごとに「学びに向かう力，人間性等」に対応した指導内容を示すこととした。

［ 3 ］の語群

①　公正　　②　協力　　③　共生　　④　態度

問４　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、保健体育科の目標について示されているものの一部である。［ 4 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 4 ］。

> **１　教科の目標**
>
> ～中略～
>
> 生涯にわたって**豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力**とは，体育を通して培う［ 4 ］な目標を示したものである。この資質・能力とは，それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて，その楽しさや喜びを味わおうとする自主的な態度，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲や健康・安全への態度，運動を合理的に実践するための運動の技能や知識，それらを活用するなどの思考力，判断力，表現力等を指している。

［ 4 ］の語群

①　包括的　　②　総合的　　③　重点的　　④　発展的

kyosai-guild.jp

問５　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、第１学年及び第２学年の目標について示されているものの一部である。［ 5 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 5 ］。

〔体育分野〕
１　目標
［第１学年及び第２学年］
～中略～
運動，体力の必要性について理解するとは，運動についての理解及び体力の必要性について理解することを示している。（中略）
体力の必要性について理解するとは，体力は人間の［ 5 ］であること，体力と運動の技能は相互に関連して高まることなどを理解することを示している。そのため，それぞれの運動の特性や魅力に触れるために必要となる体力や健康に生活するための体力を，生徒自らが高められるようにすることが大切である。

［ 5 ］の語群
①　生命維持の源　　②　不可欠な要素
③　生命の根源　　④　活動の源

問６　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、指導計画の作成について示されているものの一部である。［ 6 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 6 ］。

１　指導計画の作成
～中略～
主体的・対話的で深い学びは，必ずしも１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で，例えば，主体的に学習に取り組めるよう［ 6 ］を立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか，対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか，学びの深まりをつくり出すために，生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった視点で授業改善を進めることが求められる。

［ 6 ］の語群
①　学習の計画　　②　課題の仮説
③　学習の見通し　　④　指導と評価の計画

kyosai-guild.jp

問７　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、指導計画の作成について示されているものの一部である。［ 7 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 7 ］。

> **１　指導計画の作成**
>
> ～中略～
>
> 〈各分野に当てる授業時数〉
>
> 次に，３学年間で各分野に当てる授業時数は，体育分野［ 7 ］程度，保健分野 48 単位時間程度を配当することとしている。
>
> このうち，体育分野の授業時数は，各学年にわたって適切に配当することとしている。
>
> また，各分野に当てる授業時数は，例えば，体ほぐしの運動と心の健康，水泳と応急手当などの指導に当たっては，体育分野と保健分野との密接な関連をもたせて指導するように配慮する必要がある。そのため３学年間で各分野に当てる授業時数は，若干の幅をもたせて「程度」とした。

［ 7 ］の語群

① 105 単位時間　　② 150 単位時間

③ 267 単位時間　　④ 315 単位時間

問８　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、指導計画の作成の配慮事項について示されているものの一部である。［ 8 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 8 ］。

> **１　指導計画の作成**
>
> ～中略～
>
> ・グループでの準備や役割分担が難しい場合には，準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるよう，準備や役割分担の［ 8 ］や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませるなどの配慮をする。

［ 8 ］の語群

① 補助的説明　　② 視覚的な明示　　③ 話し合い　　④ 再確認

kyosai-guild.jp

問９　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、内容の取扱いについて示されているものの一部である。［ ９ ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ ９ ］。

> １　指導計画の作成
> ～中略～
> なお，オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実を図る観点から，パラリンピック競技大会で実施されている種目などの障害者スポーツを体験するなどの工夫も考えられる。その際，［ ９ ］や特性にかかわらず，全ての生徒が実施可能な体験となるように留意することが大切である。

［ ９ ］の語群

①　障害の有無　　②　性別の差　　③　障害の程度　　④　技能の差

問 10　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中で、健やかな体について示されているものの一部である。［ 10 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 10 ］。

> ２　健やかな体（第１章第１の２の(3)）
> ～中略～
> 本項で示す体育に関する指導については，積極的に運動する生徒とそうでない生徒の二極化傾向が指摘されていることなどから，生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくとともに，現在及び将来の体力の向上を図る［ 10 ］の育成を目指し，生徒が自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け，心身を鍛えることができるようにすることが大切である。

［ 10 ］の語群

①　継続力　　②　課題解決能力　　③　汎用性　　④　実践力

kyosai-guild.jp

〔２〕 体育分野について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ａ　体つくり運動」の「学びに向かう力，人間性等」の内容について示されているものの一部である。［ 11 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 11 ］。

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年

> **(3) 学びに向かう力，人間性等**
> ～中略～
> **話合いに貢献しようとする**とは，自己や仲間の課題の解決の場面で，自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりするなど，話合いに責任をもって関わろうとすることを示している。そのため，相互の信頼関係を深めるためには，［ 11 ］しながら発言したり，提案者の発言に同意したりして話合いを進めることなどが大切であることを理解し，取り組めるようにする。

「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次

> **(3) 学びに向かう力，人間性等**
> ～中略～
> **話合いに貢献しようとする**とは，自己や仲間の課題の解決に向けて，自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりするなど，話合いに責任をもって関わろうとすることを示している。そのため，相互の信頼関係を深めるためには，［ 11 ］しながら発言したり，提案者の発言に同意したりして話合いを進めることなどが大切であることを理解し，取り組めるようにする。

［ 11 ］の語群

① 相手の感情に配慮　　② 相手の意見を尊重
③ 相手の意見を考慮　　④ 相手の気持ちを傾聴

kyosai-guild.jp

問２　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ａ　体つくり運動」の「運動」の内容について示されているものの一部である。［ 12 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 12 ］。

○　運動

ア　体ほぐしの運動

手軽な運動とは，誰もが簡単に取り組むことができる運動，仲間と協力して楽しくできる運動，心や体が弾むような［ 12 ］を示している。

心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付きとは，運動を通して，体がほぐれると心がほぐれ，心がほぐれると体が軽快に動き，仲間の心も一層解放されるように，自己や他者の心と体は，互いに影響し合い，関わり合いながら変化することに気付くことである。

［ 12 ］の語群

①　激しい運動　　②　軽快な運動
③　リズミカルな運動　　④　全身持久力を高める運動

問３　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｂ　器械運動」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［ 13 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 13 ］。

○　技能

～中略～

構成し演技するとは，基本的な技，［ 13 ］，発展技の中から，技の静止や組合せの流れに着目して「はじめ―なか―おわり」に用いる技を構成し，演技できるようにするといった組合せの質的な発展を示している。

なお，これらの指導に際しては，系，技群，グループの視点を踏まえて，自己に適した技を選び，挑戦させるようにすることが大切である。また，発展技に挑戦する際には，［ 13 ］を行うことにより動き方に変化を生じさせ，発展技への準備状態をつくり出した上で発展技を行わせるようにするなどの工夫をすることが大切である。

［ 13 ］の語群

①　連続技　　②　条件を変えた技　　③　回転技　　④　高難度の技

kyosai-guild.jp

問４　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｂ　器械運動」の「学びに向かう力、人間性等」の内容について示されているものの一部である。［ 14 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 14 ］。

(3) 学びに向かう力，人間性等

器械運動について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(3) 器械運動に自主的に取り組むとともに，よい演技を［ 14 ］こと，互いに助け合い教え合おうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保すること。

［ 14 ］の語群

① 取り入れようとする　② 認めようとする
③ 参考にしようとする　④ 讃(たた)えようとする

問５　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｃ　陸上競技」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［ 15 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 15 ］。

○ 技能

ア 短距離走・リレー

～中略～

指導に際しては，走る距離は，短距離走で 100 ～ 200 m程度，リレーでは一人［ 15 ］程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

［ 15 ］の語群

① 50 ～ 100 m　② 50 ～ 150 m　③ 100 ～ 150 m　④ 100 ～ 200 m

kyoso-guild.jp

問６　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｃ　陸上競技」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［16］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［16］。

○　**技能**

～中略～

エ　走り幅跳び

走り幅跳びでは，助走のスピードとリズミカルな動きを生かして力強く踏み切り，より遠くへ跳んだり，競争したりできるようにする。

力強く踏み切ってとは，速い助走から適切な角度で跳び出すために地面を強くキックすることである。

〈例示〉

・踏み切り前［16］からリズムアップして踏み切りに移ること。

［16］の語群

①　２～３歩　　②　３～４歩　　③　４～５歩　　④　５～６歩

問７　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｄ　水泳」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［17］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［17］。

○　**技能**

～中略～

［泳法］

ア　クロール

手と足の動き，呼吸のバランスを保ちとは，プルとキックのタイミングに合わせて呼吸を行い，［17］をしながら伸びのある泳ぎをすることを示している。

安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりするとは，プル，キック及び呼吸動作のタイミングを合わせた無理のない一定のスピードで，続けて長く泳ぐこと，力強いプルとキックで全力を出して，スピードに乗って泳ぐこと示している。

［17］の語群

①　ボビング　　②　リカバリー　　③　ローリング　　④　バブリング

kyosai-guild.jp

問８　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｄ　水泳」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［ 18 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 18 ］。

○　**技能**

～中略～

［泳法］

～中略～

オ　複数の泳法で泳ぐこと，又はリレーをすること

複数の泳法で泳ぐとは，これまで学習したクロール，平泳ぎ，背泳ぎ，バタフライの４種目から２～４種目を選択し，続けて泳ぐことである。

リレーをするとは，競泳的なリレー種目として，単一の泳法や複数の泳法を使ってチームで競い合うことである。

指導に際しては，リレーを行う場合は，**水中からのスタート**との関連から，引継ぎは水中で行わせるようにする。また，複数の泳法で泳ぐ場合の距離は 25 ～ 50 m 程度を目安とし，リレーの距離はチームで［ 18 ］程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。

［ 18 ］の語群

①　75 ～ 100 m　　②　100 ～ 125 m　　③　100 ～ 150 m　　④　100 ～ 200 m

kyosai-gunma.jp

問９　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年７月）」の中学校第３学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年７月）」の入学年次の中で、「Ｅ　球技」の「知識及び技能」の内容について示されているものの一部である。［19］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［19］。

（1）知識及び技能

球技について、次の事項を身に付けることができるように指導する。

(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

ア　ゴール型では，［19］ボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。

イ　ネット型では，役割に応じたボール操作や［19］用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ　ベースボール型では，［19］バット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。

［19］の語群

①　スムーズな　　②　確実な　　③　適切な　　④　安定した

問 10　次の記述は、「学校体育ソフトボールガイドブック」に書かれているソフトボールの投球に関する説明の一部である。［20］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［20］。

投手は、両足を投手板の上に置き、投球腕を、肩を軸にして［20］振って、一歩踏み出して投球する（スタンダード投法）。また、投球腕を、肩を軸にして［20］振って、踏み出し足を捕手に向かってまっすぐに踏み出すように投球する。

［20］の語群

①　大きく回して　　②　力強く　　③　振り子のように　　④　前後に大きく

kyosai-guild.jp

問11　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編（平成29年7月）」の中学校第3学年及び「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年7月）」の入学年次の中で、「F　武道」の「学びに向かう力，人間性等」の内容について示されているものの一部である。［21］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［21］。

> **(3) 学びに向かう力，人間性等**
>
> ～中略～
>
> **相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとする**とは，単に伝統的な行動の仕方を所作として守るだけではなく，「［21］」などの伝統的な行動の仕方を自らの意思で大切にしようとすることを示している。そのため，伝統的な行動の仕方を大切にすることは，自分で自分を律する克己の心に触れるとともに，人間形成につながることを理解し，取り組めるようにする。

［21］の語群

① 一足一刀の間合い　② 座礼や蹲踞
③ 礼に始まり礼に終わる　④ 相手を敬う心

問12　次の記述は、全日本剣道連盟剣道試合・審判第12条の「有効打突（一本）」に関する記述である。［22］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［22］。

> 有効打突は、充実した［22］、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心のあるものとする。

［22］の語群

① 動作　② 発声　③ 精神　④ 気勢

kyosai-guild.jp

問 13　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年 7 月）」の中学校第 3 学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年 7 月）」の入学年次の中で、「G　ダンス」の「知識」の内容について示されているものの一部である。［ 23 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 23 ］。

○　知識

～中略～

体力の高め方では，ダンスのパフォーマンスは，体力要素の中でも，主として柔軟性，［ 23 ］，全身持久力などに影響を与える。そのため，いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで，結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。

［ 23 ］の語群

①　平衡性　　②　巧緻性　　③　敏しょう性　　④　筋力

問 14　次の記述は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年 7 月）」の中学校第 3 学年及び「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編（平成 30 年 7 月）」の入学年次の中で、「G　ダンス」の「技能」の内容について示されているものの一部である。［ 24 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、後の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 24 ］。

○　技能

ア　創作ダンス

～中略～

個や群での動きとは，即興的に表現したり作品にまとめたりする際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには，主役と脇役の動き，一斉の同じ動き（［ 24 ］）やばらばらの異なる動き，集団の動きを少しずつずらした動き（カノン），密集や分散の動きなどがある。

［ 24 ］の語群

①　ユニゾン　　②　シンコペーション

③　シンメトリー　　④　アイソレーション

kyoshi-guild.jp

〔3〕 保健分野について、次の各問いに答えなさい。

問1 次の記述は、健康に関する主体の要因と環境の要因について示したものである。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［25］。

健康に影響を与える要因の一つは、主体要因と呼ばれるもので、［ア］、性、免疫、遺伝などの要素と、生後に獲得される運動、食事、休養や睡眠などの生活行動や習慣がある。またもう一つの要因として環境要因があり、温度や湿度などの物理的環境、［イ］などの化学的環境、ウイルスや細菌などの［ウ］、［エ］や保健・医療機関などの［オ］などがある。

［25］の解答群

① ア 年齢　イ 有害化学物質　ウ 生物学的環境　エ 生育歴　オ 公的環境

② ア 性格　イ 光化学スモッグ　ウ 生物学的環境　エ 生育歴　オ 社会的環境

③ ア 年齢　イ 光化学スモッグ　ウ 病的環境　エ 人間関係　オ 公的環境

④ ア 性格　イ 光化学スモッグ　ウ 病的環境　エ 生育歴　オ 社会的環境

⑤ ア 性格　イ 有害化学物質　ウ 病的環境　エ 人間関係　オ 公的環境

⑥ ア 年齢　イ 有害化学物質　ウ 生物学的環境　エ 人間関係　オ 社会的環境

kyosai-guild.jp

問２　次の記述は、循環器の発育・発達について示したものである。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［26］。

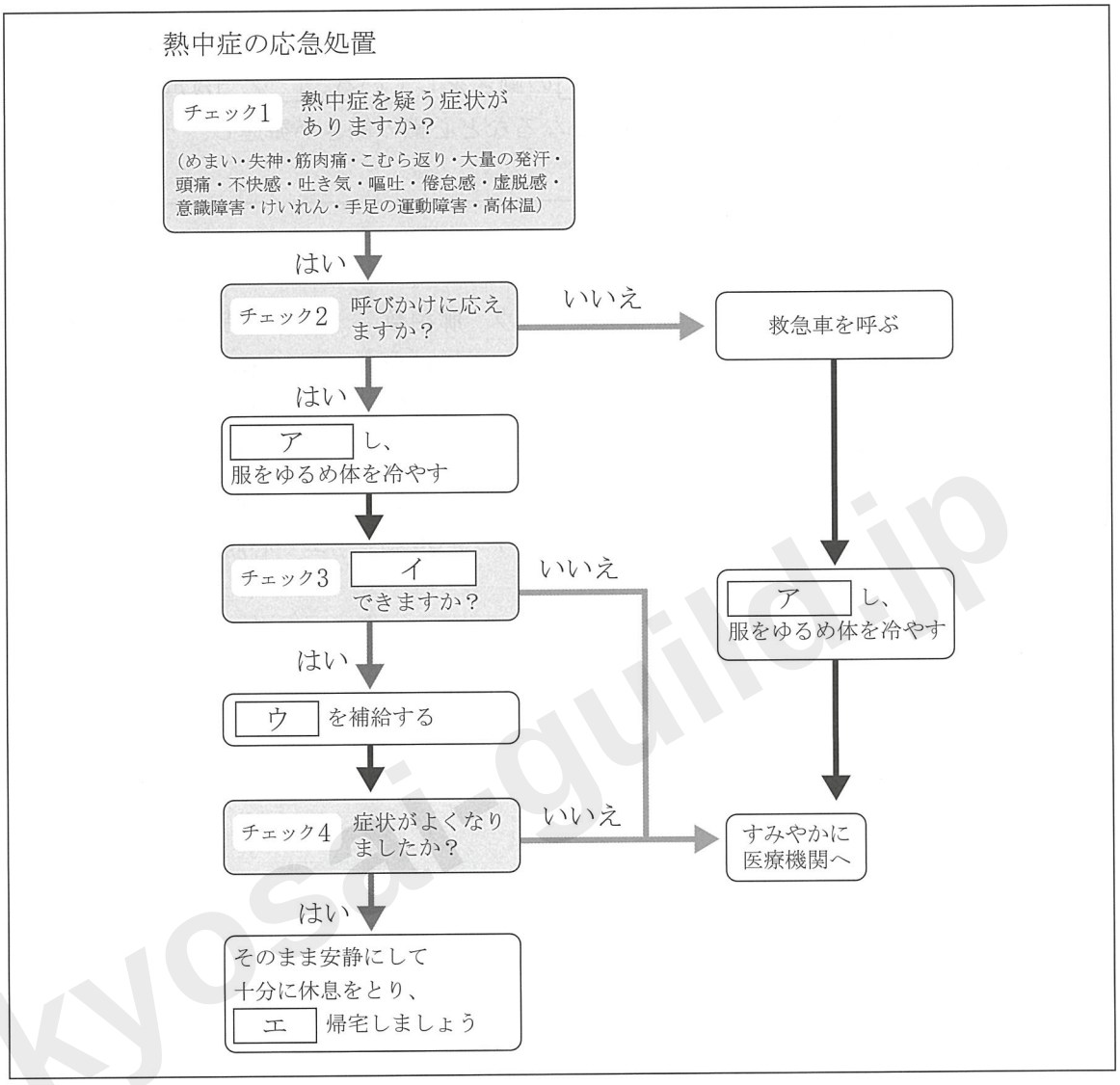
心臓や動脈、静脈などの循環器は全身の細胞に酸素や栄養素を送り、細胞から出された［ア］や老廃物を回収する［イ］の働きをしている。［ウ］は成長と共に減る。これは、心臓が発育して［エ］が強くなるなど心臓の働きが発達し、一度に心臓から送り出せる［オ］が増えるためである。

［26］の解答群

①	ア	二酸化炭素	イ	血液循環	ウ	脈拍数	エ	心筋の力	オ　排出量
②	ア	二酸化炭素	イ	血液循環	ウ	心拍数	エ	収縮する力	オ　拍出量
③	ア	二酸化炭素	イ	肺循環	ウ	脈拍数	エ	収縮する力	オ　拍出量
④	ア	一酸化炭素	イ	肺循環	ウ	脈拍数	エ	収縮する力	オ　排出量
⑤	ア	一酸化炭素	イ	肺循環	ウ	心拍数	エ	心筋の力	オ　拍出量
⑥	ア	一酸化炭素	イ	血液循環	ウ	心拍数	エ	心筋の力	オ　排出量

kyosai-guild.jp

問３　次の図は、環境省の「熱中症環境保健マニュアル～総論～ 2025 年７月版」に示されている熱中症の応急処置のフローチャートである。［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［27］。



［27］の解答群

① ア　涼しい場所へ避難　　イ　水分を自力で摂取　　ウ　水分・塩分
　 エ　回復したら

② ア　涼しい場所へ避難　　イ　助けを借りて水分を摂取　　ウ　水分・塩分
　 エ　回復したら

③ ア　涼しい場所へ避難　　イ　水分を自力で摂取　　ウ　経口補水液
　 エ　平熱に戻ったら

④ ア　静かな場所へ避難　　イ　助けを借りて水分を摂取　　ウ　水分・塩分
　 エ　平熱に戻ったら

⑤ ア　静かな場所へ避難　　イ　助けを借りて水分を摂取　　ウ　経口補水液
　 エ　平熱に戻ったら

⑥ ア　静かな場所へ避難　　イ　水分を自力で摂取　　ウ　水分・塩分
　 エ　回復したら

kyosaiguild.jp

問４　次の記述は、応急手当の意義と方法についてのものである。［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は［28］。

けがや病気が発生したときに、そこに居合わせた近くの人が、一時的に行う手当の事を応急手当という。応急手当には、「けがや病気の［ア］」、「傷病者の苦痛や不安を［イ］」、「その後の治療効果を高め、治療後の［ウ］を早める」といった意義がある。応急手当の一つの方法として、出血を止めるために患部を圧迫する方法を［エ］という。

［28］の解答群

①	ア　悪化を防ぐ	イ　やわらげる	ウ　回復	エ　直接圧迫止血法
②	ア　悪化を防ぐ	イ　取り除く	ウ　退院	エ　間接圧迫止血法
③	ア　状態を把握する	イ　取り除く	ウ　退院	エ　間接圧迫止血法
④	ア　状態を把握する	イ　やわらげる	ウ　回復	エ　直接圧迫止血法
⑤	ア　状態を把握する	イ　取り除く	ウ　退院	エ　直接圧迫止血法

kyosai-guild.jp

問５　次の記述は、中学校保健教育参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」（文部科学省）の「３章　保健教育を効果的に進めるために　第１節　教育課程の編成及び実施における教職員の共通理解」の一部である。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［29］。

２．教職員の共通理解

●単元計画を作成する際に，学習指導要領の内容とその系統性，各教科等の関連や［ア］等を明らかにし，単元全体の構造について共通理解を図る。

●学習指導要領及び学習指導要領解説を踏まえ，指導内容やその取扱いを整理するとともに，当該単元で扱う内容の［イ］と各教科等の内容との関連について共通理解を図る。

●子供の心身の成長や発達には［ウ］があることから，集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行う必要がある。集団指導で扱う内容と個別指導で扱う内容とを明確にし，それらを関連させて指導することについて共通理解を図る。

●保健教育の推進に当たり，保健体育科をはじめとする各教科主任等との連絡・調整を密にし，［エ］に位置付いている場合でも，職員会議や打合わせ等で確認するなど学校全体で共通理解を図る。

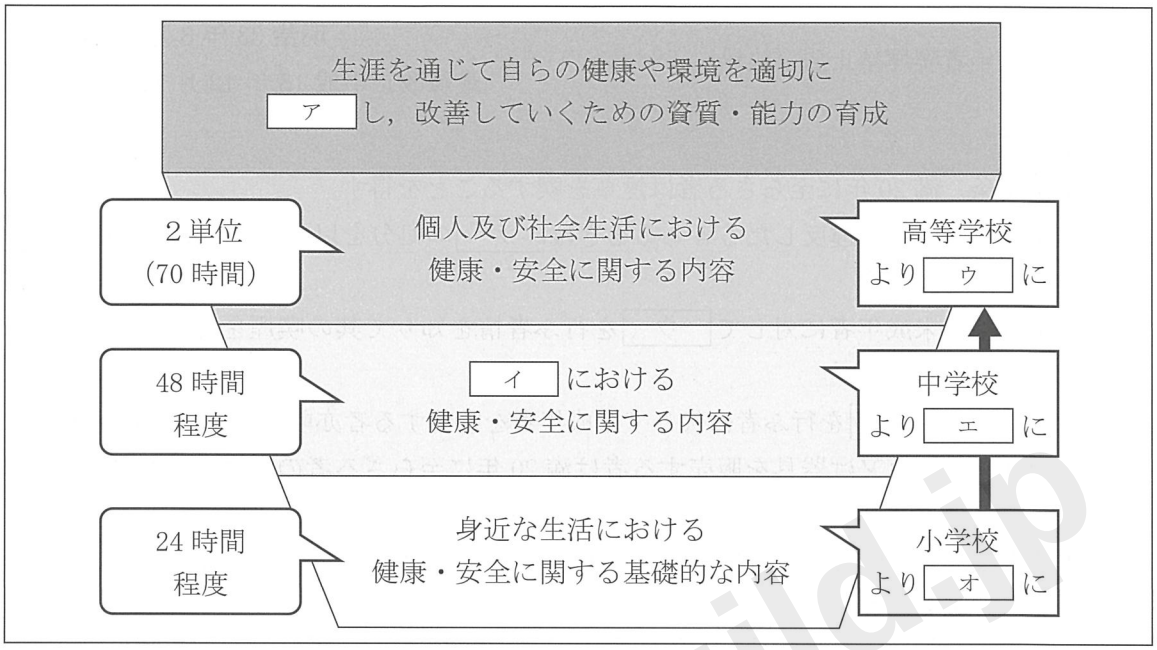
●保健の指導を行う際に，必要に応じて養護教諭，［オ］，学校栄養職員などと連携・協力するなど，多様な指導方法を工夫するよう配慮する。

［29］の解答群

①	ア	評価方法	イ	系統性	ウ	個人差	エ	年間指導計画	オ　栄養教諭
②	ア	評価方法	イ	発展性	ウ	個人差	エ	学校教育計画	オ　栄養教諭
③	ア	評価方法	イ	系統性	ウ	男女差	エ	年間指導計画	オ　学校栄養士
④	ア	評価時期	イ	発展性	ウ	男女差	エ	年間指導計画	オ　学校栄養士
⑤	ア	評価時期	イ	発展性	ウ	個人差	エ	学校教育計画	オ　学校栄養士
⑥	ア	評価時期	イ	系統性	ウ	男女差	エ	学校教育計画	オ　栄養教諭

kyosai-gund.jp

問６　次の図は、中学校保健教育参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」（文部科学省）の「第１章　総説　第２節　指導の基本的な考え方」に示されている保健における体系イメージである。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［30］。



［30］の解答群

①	ア	考慮	イ	個人生活	ウ	系統的	エ	論理的	オ	積極的
②	ア	考慮	イ	家庭生活	ウ	総合的	エ	論理的	オ	実践的
③	ア	考慮	イ	家庭生活	ウ	系統的	エ	科学的	オ	積極的
④	ア	管理	イ	家庭生活	ウ	系統的	エ	科学的	オ	実践的
⑤	ア	管理	イ	個人生活	ウ	総合的	エ	科学的	オ	実践的
⑥	ア	管理	イ	個人生活	ウ	総合的	エ	論理的	オ	積極的

kyosai-guild.jp

問７　次の記述は、「かけがえのない自分、かけがえのない健康（中学生用）」（文部科学省）の「第３章　喫煙、飲酒と健康」に示されている未成年者喫煙禁止法（抜粋）である。［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は［31］。

未成年者喫煙禁止法（抜粋）

明治 33 年３月７日法律第 33 号
最終改正平成 13 年 12 月 12 日法律第 152 号

条文

第１条　満 20 年に至らさる者は煙草を喫することを得す

第２条　前条に違反したる者あるときは［ア］の処分を以て喫煙の為に所持する［イ］を没収す

第３条　未成年者に対して［ウ］を行ふ者情を知りて其の喫煙を抑止せさるときは科料に処す

２　［ウ］を行ふ者に代りて未成年者を監督する者亦前項に依りて処断す

第４条　煙草又は器具を販売する者は満 20 年に至らざる者の喫煙の防止に資する為年齢の確認其の他の必要なる措置を講ずるものとす

第５条　満 20 年に至らさる者に其の自用に供するものなることを知りて煙草又は器具を販売したる者は［エ］以下の罰金に処す

※現在は「二十歳未満ノ者ノ喫煙ノ禁止ニ関スル法律」になっている。

［31］の解答群

① ア　警察　イ　煙草すべて　ウ　養育　エ　50 万円
② ア　行政　イ　煙草及器具　ウ　親権　エ　50 万円
③ ア　行政　イ　煙草すべて　ウ　親権　エ　30 万円
④ ア　警察　イ　煙草及器具　ウ　親権　エ　30 万円
⑤ ア　行政　イ　煙草及器具　ウ　養育　エ　30 万円

kyosai-guild.jp

問８　次の記述は、「かけがえのない自分、かけがえのない健康（中学生用）」（文部科学省）の「第３章 喫煙、飲酒と健康」に示されている急性アルコール中毒についてまとめたものである。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［32］。

急性アルコール中毒	アルコールによる急性の影響で、命の危険を伴うまでに至った状態です。
飲酒量	血中濃度で［ア］%以上が中毒域。［イ］%以上では死に至る危険性が高くなります。短時間に日本酒［ウ］またはビール中ビン［エ］以上飲んだ場合に［イ］%を超える危険があります。
中毒の危険が高い人	・アルコールの分解の遅い人 （未成年者、女性、高齢者、体が小さい人、飲酒後顔が赤くなる人） ・アルコールに慣れていない人 ・アルコールの飲み方・酔い方が分かっていない人
症状	意識が薄れてくるとともに、激しい吐き気、体温低下、血圧低下、脈が速くなる、呼吸数が［オ］などの症状が出てきます。さらに血中濃度が上がると、意識を失って倒れ、死に至ることがあります。また、吐いた物をのどに詰まらせ、窒息（ちっそく）で死亡することもあります。

［32］の解答群

① ア　0.15　イ　0.5　ウ　３合　エ　３本　オ　減少する
② ア　0.05　イ　0.4　ウ　５合　エ　５本　オ　増加する
③ ア　0.05　イ　0.5　ウ　３合　エ　３本　オ　増加する
④ ア　0.05　イ　0.4　ウ　５合　エ　５本　オ　減少する
⑤ ア　0.15　イ　0.5　ウ　３合　エ　３本　オ　増加する
⑥ ア　0.15　イ　0.4　ウ　５合　エ　５本　オ　減少する

kyosai-guild.jp

問９　次の記述は、「健康な生活を送るために（高校生用）」（文部科学省）の「０７　生活習慣病」に示されている「ブレスローの７つの健康習慣」を示したものである。下線部(a)～(e)の語句の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 33 。

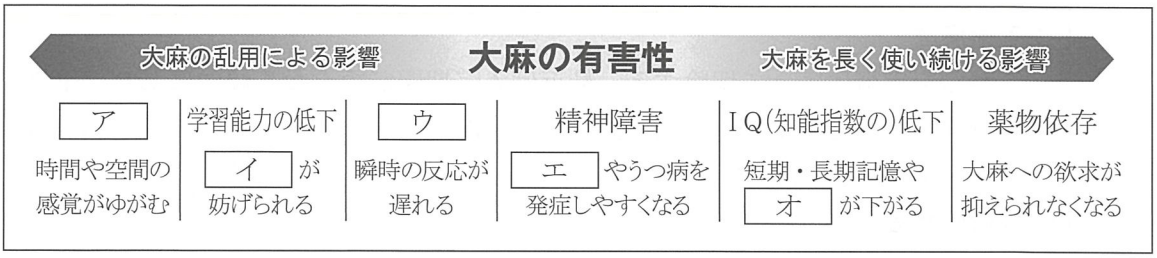
1	喫煙をしない
2	(a)定期的に運動をする
3	飲酒は(b)絶対にしない
4	１日(c)６～７時間の睡眠を
5	(d)適正体重を維持する
6	朝食を食べる
7	(e)昼寝をしない

33 の解答群

①	(a)－正	(b)－誤	(c)－誤	(d)－正	(e)－誤
②	(a)－誤	(b)－正	(c)－誤	(d)－誤	(e)－正
③	(a)－正	(b)－誤	(c)－正	(d)－誤	(e)－誤
④	(a)－誤	(b)－正	(c)－正	(d)－正	(e)－正
⑤	(a)－正	(b)－正	(c)－誤	(d)－誤	(e)－誤
⑥	(a)－誤	(b)－誤	(c)－正	(d)－正	(e)－正

kyosai-guild.jp

問 10　次の図は、「健康な生活を送るために（高校生用）」（文部科学省）の「11　薬物乱用の害」に示されている大麻の有害性を表したものである。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［34］。



［34］の解答群

① ア　妄想・幻想　イ　短期記憶　ウ　反応鈍化　エ　不安症
　オ　学習意欲

② ア　妄想・幻想　イ　長期記憶　ウ　運動失調　エ　不安症
　オ　学習意欲

③ ア　妄想・幻想　イ　長期記憶　ウ　反応鈍化　エ　統合失調症
　オ　情報処理速度

④ ア　知覚の変化　イ　長期記憶　ウ　運動失調　エ　統合失調症
　オ　学習意欲

⑤ ア　知覚の変化　イ　短期記憶　ウ　運動失調　エ　統合失調症
　オ　情報処理速度

⑥ ア　知覚の変化　イ　短期記憶　ウ　反応鈍化　エ　不安症
　オ　情報処理速度

kyosai-guild.jp

問11　次の記述は、「がん教育推進のための教材（令和３年３月　一部改訂）」（文部科学省）の「６がんの治療法」の一部である。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［35］。

①手術療法

がんを手術によって切除する。最近は入院期間が短くなる傾向にあり，早期であれば数日間の入院，又は通院で治療できる。体への負担は大きいが，最近では［ア］（小型カメラ）を用いた手術など，負担を軽減する手術方法も普及してきている。

②放射線療法

放射線を照射することによってがん細胞を［イ］，がんを完治させたり症状を取り除いたりする。放射線療法は通院で行うことができ，体への負担も比較的少ない。

③化学療法（抗がん剤など）

抗がん剤などの薬を服用あるいは［ウ］などして，がん細胞の増殖を抑える。薬の種類によっては，［エ］として脱毛，吐き気などが現れる。最近は通院で治療できる場合も増えつつある。なお，子供にも多い［オ］では，抗がん剤による治療が行われることが多い。

［35］の解答群

① ア　ロボット支援　イ　死滅させ　ウ　点滴・照射する　エ　副作用　オ　骨肉種

② ア　ロボット支援　イ　弱体化させ　ウ　点滴・照射する　エ　相互作用　オ　骨肉種

③ ア　ロボット支援　イ　弱体化させ　ウ　点滴・注射する　エ　相互作用　オ　白血病

④ ア　内視鏡　イ　死滅させ　ウ　点滴・注射する　エ　副作用　オ　白血病

⑤ ア　内視鏡　イ　弱体化させ　ウ　点滴・照射する　エ　副作用　オ　白血病

⑥ ア　内視鏡　イ　死滅させ　ウ　点滴・注射する　エ　相互作用　オ　骨肉腫

kyosai-guild.jp

問 12　次の記述は、「外部講師を活用したがん教育ガイドライン（令和３年３月一部改訂）」（文部科学省）の「第２章　３　がん教育実施上の留意点」の一部である。下線部(a)～(e)の語句の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 36 。

> **(2) 外部講師**
>
> がんに関する(a)科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合は，専門的な内容を含むため，学校医，がん専門医（「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン，(b)がん診療重点病院等の活用を考慮）など，医療従事者による指導が効果的と考えられる。また，健康や命の大切さをねらいとした場合は，(c)がん患者の家族やがん経験者等による指導も効果的と考えられる。
>
> その際，例えば，各教科担任が実施する授業と，専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等を関連させて指導することでより成果を上げるように留意する。
>
> ただし，それぞれの専門性は備えていても児童生徒に対する教育指導に関しては専門家ではないので，事前に講師候補者に対し，学習指導上の留意点について共有する。また，これらの関係者との連携は重要であるが，授業計画の作成に当たっては，(d)医療従事者が主体となるよう留意すべきである。
>
> また，がん患者や経験者等の体験談は貴重であるが，家族に経験者がいる場合などには強い印象を与える可能性があることに留意しなければならない。教員と外部講師は，事前事後で打合せを行うことで指導のねらいを共有し，(e)教育効果を高めることが期待される。

36 の解答群

①	(a)－正	(b)－正	(c)－誤	(d)－誤	(e)－誤
②	(a)－正	(b)－誤	(c)－誤	(d)－誤	(e)－正
③	(a)－正	(b)－正	(c)－誤	(d)－正	(e)－正
④	(a)－誤	(b)－誤	(c)－正	(d)－誤	(e)－正
⑤	(a)－誤	(b)－正	(c)－誤	(d)－正	(e)－誤
⑥	(a)－正	(b)－誤	(c)－正	(d)－誤	(e)－正

kyosai-guild.jp

問13　次の記述は、「『ギャンブル等依存症』などを予防するために　生徒の心と体を守るための指導参考資料」（文部科学省）の「１依存症とは　③やめられなくなる脳の仕組み」の一部である。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［37］。

脳には、美味しいものを食べる、試験に合格するなどによって快感や幸せを感じる機能があります。これは、行動嗜癖が生まれるプロセスに重要な役割を果たしています。

ギャンブル等を行ったり、依存物質を摂取したりすることにより、脳内で［ア］という神経伝達物質が分泌されます。［ア］が脳内に放出されることで［イ］が興奮して快感・多幸感が得られます。この感覚を脳が「報酬（ごほうび）」と認識すると、その報酬（ごほうび）を求める回路が脳内にできあがります。

しかし、その行為が繰り返されると次第に「報酬（ごほうび）」回路の機能が低下していき、「快感・喜び」を感じにくくなります。そのため、以前と同じ快感を得ようとして、［ウ］の使用量が増えたり、行動がエスカレートしたりしていきます。また、脳の思考や［エ］を担う部位（［オ］）の機能が低下し、自分の意思でコントロールすることが困難になります。特に子供は［オ］が十分に発達していないため、嗜癖行動にのめり込む危険性が高いといわれています。

［37］の解答群

①	ア	ドーパミン	イ	中枢神経	ウ	薬物	エ	記憶	オ 前頭前野
②	ア	ドーパミン	イ	末梢神経	ウ	依存物質	エ	創造性	オ 側頭葉
③	ア	ドーパミン	イ	中枢神経	ウ	依存物質	エ	創造性	オ 前頭前野
④	ア	アドレナリン	イ	末梢神経	ウ	薬物	エ	記憶	オ 前頭前野
⑤	ア	アドレナリン	イ	末梢神経	ウ	依存物質	エ	記憶	オ 側頭葉
⑥	ア	アドレナリン	イ	中枢神経	ウ	薬物	エ	創造性	オ 側頭葉

kyosai-guild.jp

令和８年度実施　横浜市公立学校教員採用候補者選考試験【夏実施】
教科専門試験［中学校　保健体育］　　正答及び配点

解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	③	②	④	①	④	③	③	②	③	④
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
解答番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	①	②	②	④	①	②	③	④	④	③
配点	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
解答番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	③	④	①	①	⑥		①	①	①	⑤
配点	3	3	3	3	3		3	3	3	3
解答番号	31	32	33	34	35	36	37			
正答	②	⑥	①	⑤	④	②	③			
配点	3	3	3	3	3	3	3			

kyosai-guild.jp